

2 研究の実際

(1) 特別活動で育てたい道徳性

ア 特別活動で育てたい力を「21世紀型能力」から考える

今、特別活動と道徳教育との関連において求められていることを、国立教育政策研究所の「21世紀型能力」のイメージ図(図1)から考えてみます。国立教育政策研究所の説明によりますと、「思考力を中核とし、それを支える基礎力と、使い方を方向付ける実践力の三層構造」⁽³⁾となっており、「いかなる授業でも3つの資質・能力を意識して行うために3つの円を重ねて表示」⁽³⁾と述べられています。

特別活動で育てたい力は、特別活動の目標に「自主的・実践的な態度を育てる」とあることから考え、特に実践力だといえます。イメージ図内にある「人間関係形成力」「社会参画力」は、学級活動の目標にある「望ましい人間関係」「集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画」する力を育てることによって、身に付いていく力だと考えます。

また、杉田(2015)は「子供たちが直面する実際の学級や学校の生活の充実と向上を目指して実践する特別活動は、よりよい集団や社会をつくったり、実社会の中でよりよく生きていったりするために必要な、汎用的な実践力を身につけることができる」⁽⁴⁾と述べています。特別活動でよりよい生活や人間関係を育てておくことで、それぞれの授業において実践力として働き、「21世紀型能力」として高まっていくものと考えます。以上のことより、特別活動で、「よりよい学級や学校生活を協働して創造しようとする自治的能力」や「多様な他者とよりよい人間関係を築く力」を育むことは、「21世紀型能力」の視点からも重要なことだと思います。

また、実践につなげるために思考する場面で、「問題解決・発見力・創造力」とともに、個人がもつ道徳性が作用し、実践の選択をすることになります。実践へとつながる道徳的価値に気付かせることは、「成すことによって学ぶ」という特質をもつ特別活動だからできる道徳性の育成だと考えます。



図1 「21世紀型能力」イメージ図

イ 本研究の実践化に向けて

特別活動の目標には、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、自主的、実践的な態度、自己の生き方についての考え、自己を生かす能力など道徳的価値に関わる内容が多く含まれており、道徳教育との結び付きは極めて深い。とりわけ、特別活動における学級や学校生活における望ましい集団活動や体験的な活動は、日常生活における具体的な道徳的行為や習慣の指導をする重要な機会と場であり、道徳教育に果たす役割は大きい。

『小学校学習指導要領解説 総則編』 p. 25

平成27年7月には、『小学校学習指導要領解説 総則編』が公表されました。上記は、その中で特別活動について書かれた内容の一部です。この内容を踏まえ、特別活動における道徳的実践の指導の充実のために、次のように考えます。

○特別活動は、「学級や学校生活における望ましい集団活動や体験的な活動」を行う上で、「よりよい

生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」を育てることを目標としています。このような態度には、道徳的行為が含まれています。よって、特別活動の目標が求める指導を充実させれば、それに伴って、道徳的实践も充実すると考えます。【研究の視点1 指導過程の充実】

○児童の自主的、実践的な活動を特質とする特別活動であるため、児童にも目標や活動のよさに含まれる道徳的価値を意識させます。そうすることで、実践活動や体験活動が、道徳的实践へとつながっていくと考えます。【研究の視点2 道徳的価値の意識化】

本研究では、上記2点の研究の視点を持ち、学級活動（1）で実践したいと思います。研究の視点から考える具体的な方法は下記の通りです。

- ・ 計画委員会において、学級会で取り上げる題材と提案理由について十分に話し合います。計画委員会で話し合ったことは、帰りの会に位置付けた「ミニ学級会」で学級の全員に提案し、共通理解を図ります。題材や提案理由に含まれる道徳的価値を児童が意識できるように仕組みます。
- ・ 自分の役割についての自己目標を決定させます。自己目標をもって実践に向かわせ、実践後には自己目標について振り返らせます。このことで、自分のよさを生かしたり挑戦したりする道徳的価値に気付かせます。
- ・ 話し合い活動、実践活動期間の帰りの会において「よさ色見つけ活動」を行います。研究の視点を取り入れて学習を進める最初の題材では、児童の活動に含まれる道徳的価値を確認させます。2回目以降の題材では、道徳的価値を意識させるために宝（「学級の宝」「宝候補」）を観点として、自他の活動のよさを見付けさせます。役割ごとに「よさ色見つけ活動」を行わせることで、全員に、活動のよさが承認される機会を与えます。
- ・ 実践活動後に「あいあい会議」を開き、道徳的価値を意識した話し合いを通して、自他の活動のよさを認め合わせるとともに、学級の高まりに気付かせます。

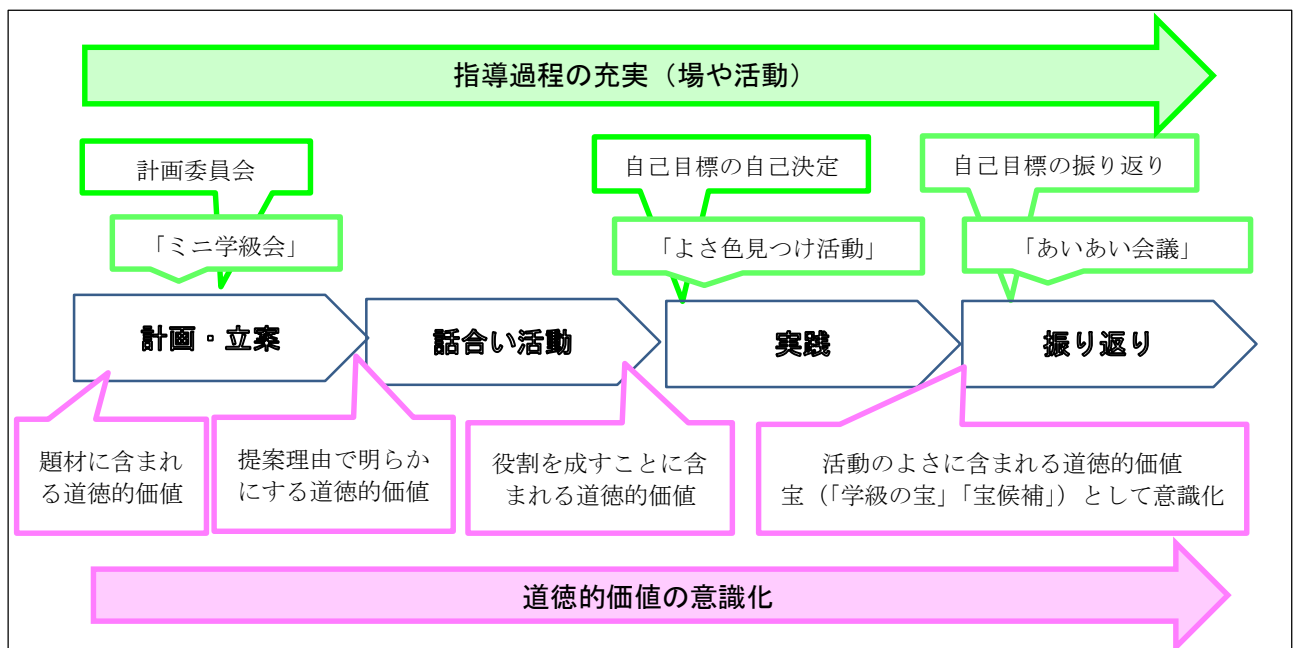


図2 本研究の手立てのイメージ図

〈引用文献〉

- (3) 研究代表者 勝野 頼彦 『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則〔改訂版〕』 p.26 2013年3月 国立教育政策研究所
- (4) 杉田 洋 『道徳と特別活動』2015年6月号 p.35 ぶんけい